

夏休みこども見学デーを 開催しました



令和7年8月8日（金曜日）、仙台合同庁舎A棟において小学生とその保護者を主な対象として、「みて、さわって、考えてみよう！わたしたちの食べものや暮らし」をテーマに「夏休みこども見学デー」を開催し、多くの来場者で賑わいました。

体験コーナーでは多くのこどもたちが、牛模型の乳しぼり、水耕栽培キット作り、けん玉体験など、参加機関が様々な工夫をして実施した多くの展示に触れながら、「食べものや暮らし」に関して楽しく学びました。

みるく教室「元気がでる朝ごはん」（のむヨーグルトづくり体験付き）では、講師である(株)明治の方からクイズを交え、朝ごはんを食べる重要性などを学んだ後、のむヨーグルト作りを体験しました。

たくさんのご来場ありがとうございました！

↓水耕栽培でエコを学ぼう
【東北農政局】



↓みるく教室「元気がでる朝ごはん」
【株式会社 明治】



↑牛模型の乳しぼり体験
【東北農政局】



↑いろんな技に挑戦！けん玉体験
【東北経済産業局】



参加機関：東北財務局、仙台国税局、東北経済産業局、東北地方整備局、東北地方環境事務所、横浜植物防疫所塩釜支所、動物検疫所北海道・東北支所、仙台空港出張所、東北森林管理局、仙台漁業調整事務所、東北農政局

「食料システム法に関する地方説明会 (東北ブロック)」を開催しました



7月24日(木)、東北農政局において、6月11日に成立し18日に公布された「食品等の持続的な供給を実現するための食品等事業者による事業活動の促進及び食品等の取引の適正化に関する法律（食料システム法）」の説明会を開催しました。



農林水産省新事業・食品産業部より、合理的な費用を考慮した価格形成、食品産業の持続的な発展（計画認定制度）等について説明を行い、生産・製造・加工・流通・販売といった食料システムに関わる皆様に広くご参加いただきました。



☆食料システム法については、こちらからご確認ください
<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/250623.html>



地域からの便り

各拠点では、「農山漁村の季節の風物詩」、「農産物直売所、農漁家民宿等の取り組み」、「村おこしイベント」、「農山漁村の行事、お祭り」、「郷土料理」など東北各地域の取り組みや様子などを東北農政局HPで紹介しています。

バイオ炭を活用した地域循環型社会への挑戦ー岩手県・久慈市ー (2025年8月5日掲載)

有限会社 谷地林業は「バイオ炭」の生産と活用に取り組んでいます。バイオ炭とは、木材や枝葉などを350℃以上の高温で炭化したもので、農地に施用すると、土壌改良や炭素貯留が見込めます。谷地林業は、森林整備の過程で発生する枝葉を利用することで、林業と農業がバイオ炭を通じて連携し、地域資源を循環的に活用する仕組みを可能にします。

代表取締役の谷地譲氏は、「バイオ炭の製造にはまだ多くの可能性がある。もみ殻やおからなどの未利用資源の炭化によって用途はさらに広がる。私たちが木炭製造で培ってきた炭化技術を活かし、脱炭素と地域振興の両立に貢献していきたい。」と語ってくださいました。



完成したバイオ炭



バイオ炭を混合した牛ふん堆肥を実証ほ場に散布している様子



谷地譲代表取締役（右）と渡部雅裕シニアマネージャー

農作業事故から命を守ろう！

トラクターやコンバインの転倒・転落
事故、道幅の狭い農道は特に注意！

熱中症対策も
お忘れなく！

農作業安全対策のポイント

- ・安全装備を装着！
- ・危険個所の確認！
- ・こまめな休憩と水分補給！



https://www.maff.go.jp/tohoku/seisan/n_anzen/index.html

【問合せ先】東北農政局生産部環境・技術課022-263-1111（内線4541）

詳しくは
こちら

◆◆◆農政トピックス◆◆◆



農林水産省は、農福連携に取り組んでいる優れた
事例をノウフク・アワードとして表彰し、全国への
情報発信を通じて、他地域へ横展開していきます。

◆ エントリー受付中 令和7年9月30日（火）まで

募集などの詳しい情報はコチラから確認ください。

ノウフク・アワード2025特設サイト

URL <https://noufuku.jp/award/award2025>（外部リンク）



有毒な野生きのこによる食中毒の予防のため

デジタルチラシを作成しました！

東北農政局では、毎年、有毒な野生きのこによる食中毒の予防に関する情報発信を行っています。

本年度は、未就学児や児童が公園等に行った際、毒きのこに触れたり採取してしまう事例があることから、**未就学児等向けにデジタルチラシを作成しました。**（白色と紺色の2色展開。）

幼稚園、保育園、認定こども園、教育機関及びご家庭等で広くご活用ください。



＜デジタルチラシのダウンロードはコチラ＞

https://www.maff.go.jp/tohoku/syouan/syokubou_nouhi/250818.html

問合せ先：東北農政局 消費・安全部農産安全管理課 022-221-6097



「豚熱」・「アフリカ豚熱」の侵入防止！

豚熱は、東北では令和2年に山形県の農場で発生以降、宮城県と岩手県で発生しています。また、野生イノシシの豚熱感染は、東北全県で確認されています。

近隣国では、豚熱及びアフリカ豚熱の発生が継続しており、侵入リスクが高い状況が続いていますので衛生管理を徹底しましょう。

豚熱情報はコチラ

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/index.html>



アフリカ豚熱情報はコチラ

<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/asf.html>



野生イノシシの豚熱検査情報情報はコチラ

https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/wildboar_map.html



↑目的の二次元コードがうまく読み込めない場合は、指などで不要な二次元コードを隠した状態で読み込んでください。

農村振興に関する優良事例（地域活性化）

更木活性化協議会（岩手県北上市更木地域）

取組の概要

【課題】

- 更木地域は高齢化率が高く、人口減少が続く、空き家や耕作放棄された農地が増加傾向にある。
- 地域産業である養蚕業も、人手不足や後継者難、全国的な養蚕の衰退により、技術継承が難しい状態となっている。

【取組】

- 養蚕・繭細工体験の実施
- 空き家を活用したカフェイベントの開催
- 地域住民が繭玉を使った特産品開発
- 夏まつり、更木発見ウォーキング等の実施
- SNS、地域情報誌による発信

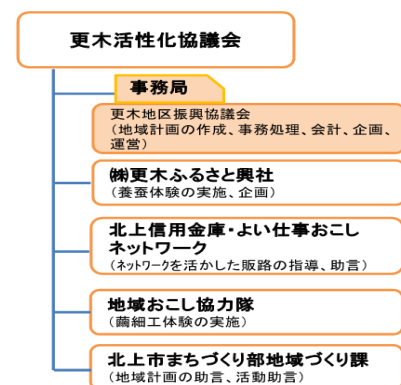


更木夏まつり

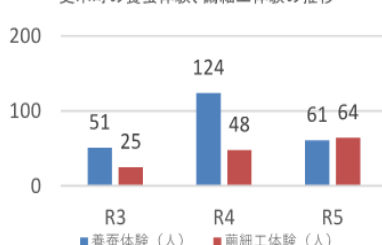
【効果】

- 夏まつりや養蚕・繭細工体験を広く宣伝した結果、都市住民等地域外から多くの参加があり交流人口が増加した。
- 交流機会の増加により地域住民のコミュニティが強化された。
- 定住促進に向け空き家を整備した。
- 地域住民が繭関連商品の開発を行い、商品化したものをインターネットなどで販売した。

体制図



更木町の養蚕体験、繭細工体験の推移



○養蚕体験は令和3年度のコロナ禍の状況から令和4年度に回復。桑園を体験のために多く開放したことにより大幅な伸びが見られた。繭細工体験は事業実施時から右肩上がりに推移し、都市農村交流活動の活性化がみられる。



更木発見ウォーキング



養蚕体験



繭細工体験



繭細工商品

◆「食・農ひとくち情報」の詳しい情報は、東北農政局ホームページをご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/tohoku/hitokuti/index.html>

◆「食・農ひとくち情報」の問合せ先：東北農政局企画調整室支援チーム
022-263-1111（内線4402、4076）



@MAFF_TOHOKU

東北農政局 公式 X
アカウントはこちら

@maff Tohoku

東北農政局公式
Instagram
アカウントはこちら

